

## 令和4年4月1日付教育委員会事務局の組織改正等について

コロナ禍の収束が未だ見通せない状況の中、引き続き、感染防止対策と学びの継続を両立しながら、将来予測が難しい時代にあっても、誰もが夢や希望を持ち、多様な価値観を認め、尊重し合いながら、自分らしく豊かな人生を歩んでいけるよう、その基盤・土台となる「生きる力」を育むことが教育の重要な使命です。

特に、急速な社会の変化やAIの飛躍的な進化など絶え間なく進む技術革新も踏まえ、大学・産業界、地域等の幅広い参画を得ながら、これまで本市教育が培ってきた京都ならではの伝統文化教育や環境教育、協働的な活動や体験活動、探究的な学習等と「教育の情報化」を融合し、多様な学びの環境や支援を通して、誰一人取り残さない「一人一人を徹底的に大切に」本市教育の充実に努めます。

さらには、人生100年時代の生涯学習環境の更なる充実に向け取り組み、第3期京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン2025」に掲げる京都の未来像の実現に向け、令和4年4月1日付けで、次のとおり、組織改正等を行います。また、行財政改革計画に掲げた取組を着実に進めて参ります。

### 1 いじめや不登校、ヤングケアラー等への対応体制の強化

いじめや不登校、また、貧困やヤングケアラー等、要因や背景が複雑で重層化する中、各家庭との信頼関係の構築とともに、福祉的な支援等に繋げるため、学校はもとより、関係機関等とも連携し、子ども一人一人に丁寧寄り添った支援の充実に向け、生徒指導課に**担当課長の増員**を行います。

### 2 「KYOTO×教育DX」ビジョン（仮称）策定に向けた体制充実

#### ～ G I G Aスクール「充実期」の取組の推進 ～

小・中・義務教育、総合支援学校では、令和3年度を一人一台端末の「本格活用元年」と位置付け、授業での活用や緊急時における学習保障等の取組等を積み重ねてきました。こうした実践を踏まえ、令和4年度を、児童生徒の日常的・主体的な端末活用をより一層推進するG I G Aスクール「充実期」と位置づけ、更なる取組の充実に図ります。

また、令和3年度に、教育委員会事務局の各所属横断的に設置したプロジェクトチームを中心に、国の学校教育情報化推進計画（令和3年度末に策定予定）を踏まえつつ、デジタル技術を活用した多様な学習や教職員の業務改善の一層の推進を通して、新たな時代に即した京都市の学校教育の方向性を示す「KYOTO×教育DX」ビジョン（仮称）の策定に向けた検討を進めるため、**担当係長を新たに配置**します。

あわせて、情報モラルやICTを活用した不登校児童生徒への支援、障害のある児童生徒の学習環境の充実、校務改善・働き方改革などの喫緊の重要課題について、G I G A端末の日常的な活用を横申しにし、学校園の支援につながる具体的な施策について、各所属が検討と実践を進めながら、上記ビジョンへも反映させます。

### 3 「北総合支援学校分校開設準備室」の設置

児童生徒数が増加する総合支援学校において、早急かつ抜本的な対策が必要となる中、現在、元格致小学校の施設を有効活用した「北総合支援学校分校」の設置（現在の北総合、東総合両支援学校が通学区域となっている下京区、中京区及び上京区の一部の児童生徒が通学）に取り組んでいます。

令和6年度の開校に向けて、教育内容の検討をはじめ、本校との連携の在り方や必要物品の配備など、開校準備を学校と一体となって行うため、指導部内に「北総合支援学校分校開設準備室」（課相当）を新設します。

【北総合支援学校分校開設準備室】

室長 — 副室長 — 室長補佐 — 室員
担当係長
指導主事

### 4 新しい高校の開校に向けた体制強化

洛陽工業高校の跡地を活用し、塔南高校を移転・再編し開校する「開建高等学校」と、京都市立芸術大学とともに京都駅東部地域へ移転・合築し開校する「美術工芸高等学校」の2校の令和5年度の開校に向け、令和2年度及び3年度から設置している2つの準備室において、合計で**専任職員を4名増員し**（事務局教育職3名・学校配置教育職1名を増員し、専任職員を教育職6名・行政職4名の計10名とする）、準備室の体制を強化します。

開建高校では、普通教室4つ分の大きさがあるラーニングポッドの活用や多様な課外活動など、生徒が夢中になって学ぶことのできる高校を目指し、美術工芸高校では、「美術『を』学ぶから美術『で』学ぶ学校へ」をコンセプトに、京都の玄関口である京都駅前への移転と京都市立芸術大学と隣接する環境を生かし、文化芸術都市・京都の更なる発展の一翼を担う高校を目指します。

### 5 行財政改革計画に掲げる取組の着実な推進

関係所属での業務の見直し、集中と選択等により、本市が全庁挙げて取り組む行財政改革計画（令和3年8月策定）に掲げた施設のあり方の検討や施設のLED化等の取組の着実な進展に向け取り組みます。